

問1 石見銀山では16世紀前半に「灰吹法」という新しい精錬技術が導入されたことで、銀の生産量が飛躍的に増大しました。この銀が当時の社会や国際情勢に与えた影響についての説明として、最も適切なものを選びなさい。（2026年 島根公立入試 類似）

1. 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。
2. 生産された銀はすべて国内の寺院や仏像の装飾に費やされ、戦国大名の信仰心を深める役割を果たした。
3. 銀は貴重な軍事機密として厳重に管理され、江戸幕府が成立するまで海外の商人と取引されることはなかった。
4. 銀の増産によって日本独自の通貨制度が完成し、中国から輸入されていた銅銭は一切使われなくなった。

問2 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 惣領制
2. 下剋上
3. 徳政令
4. 寄合

問3 戦国大名が自らの領国内を独自に統治するために定めた、一族や家臣、領民が守るべききまりを何といいますか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 慶安の御触書

問4 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力で領地を拡大した戦国大名たちが、幕府の法律に頼らず自らの領国を統治するために独自に定めた法律を何と呼ぶか、正しい名称を選びなさい。（2026年 大阪公立入試 類似）

1. 分国法
2. 御成敗式目
3. 武家諸法度
4. 公事方御定書

問5 戦国時代の社会において、大名の本拠地として栄えた都市の事例として、越前（福井県）の朝倉氏が築き、家臣の屋敷や商人の住まいが計画的に配置されていたことで知られる場所はどこですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 一乗谷
2. 堺
3. 博多
4. 石山

問6 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。（2018年 静岡県公立入試 類似）

1. 応仁の乱
2. 観応の擾乱
3. 壬申の乱
4. 承久の乱

問7 戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。
2. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。
3. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。
4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。

問8 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した
2. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した
3. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
4. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した

問9 15世紀末のヨーロッパでは、肉の保存や調味に不可欠な香辛料をイスラム勢力を介さず直接入手することが求められていました。この背景の中、ポルトガルの支援を受け、アフリカ大陸南端の喜望峯を回りインドへ到達する航路を切り開いた人物は誰ですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. バスコ＝ダ＝ガマ
2. コロンブス
3. マゼラン
4. マルコ＝ポーロ

問10 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものととして適切なものはどれか。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。
2. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。
3. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。
4. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。	灰吹法の導入により高品質な銀の大量生産が可能になると、その銀は博多などの港を通じて中国（明）や朝鮮半島、さらには東アジアに進出していたポルトガルやスペインとの貿易に用いられました。これにより、日本は世界有数の銀産出国として世界経済に組み込まれることになりました。戦国大名が石見銀山を欲したのは、この銀を背景とした強大な経済力や武器・物資の調達能力を手に入れるためです。
問2	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問3	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退する中で、戦国大名は自らの力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私闘の禁止や領民の統制を目的に制定された独自の法律が「分国法（家法）」です。これにより、大名は幕府の法に縛られることなく、領国内の秩序を維持しました。
問4	答え 1 分国法	戦国大名は、自らの力で手に入れた領地を安定して支配（領国支配）するために、家臣の行動を制限したり、領民の争いを裁いたりするための独自のルールを定めました。これは「家法」とも呼ばれます。鎌倉時代の「御成敗式目」や、後の江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 1 一乗谷	一乗谷は、戦国大名朝倉氏の拠点となった代表的な城下町です。発掘調査により、武家屋敷や職人の住まい、庭園などが非常に良好な状態で確認されており、当時の都市の様子を伝える貴重な史跡となっています。選択肢にある堺や博多は、商人たちによる自治が行われていた港町であり、石山は浄土真宗の寺院を中心とした寺内町（じないちょう）の性格が強い場所です。
問6	答え 1 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問7	答え 1 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱業の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問8	答え 1 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問9	答え 1 バスコ＝ダ＝ガマ	ポルトガルはアフリカ沿岸を南下する独自のルートを探索していました。1498年にこの人物がインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接貿易が可能になり、ポルトガルに莫大な富をもたらしました。
問10	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。

中学歴史プリント（過去問類似）

戦国時代

名前

得点

/10

問1 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何と称しますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書

問2 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2020年 京都公立入試 類似）

1. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。
2. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。
3. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍事力を支えた。
4. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。

問3 ポルトガルがバスコ・ダ・ガマを派遣し、アフリカ南端を経由するインドへの新航路を開拓させた主な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。
2. 当時中国を支配していた元との貿易を拡大し、絹織物や陶磁器を大量に輸入するため。
3. 地動説を証明するために、西回りで航海して地球を一周することが目的であったため。
4. 北アメリカ大陸にあると信じられていた黄金の国「ジバング」を探索するため。

問4 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 喜望峰 2. マゼラン海峡 3. パナマ運河 4. スエズ運河

問5 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国内を統治し、家臣や民衆を統制するために独自に制定した法律を何と称するか。（2021年 沖縄公立入試 類似）

1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 公事方御定書 4. 武家諸法度

問6 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年 島根公立入試 類似）

1. 尼子氏と毛利氏 2. 武田氏と上杉氏 3. 島津氏と大友氏 4. 織田氏と今川氏

問7 「甲州法度之次第」と呼ばれる分国法を制定し、領国内の統治を強化した戦国大名は誰か。（2021年 沖縄公立入試 類似）

1. 織田信長 2. 上杉謙信 3. 足利義満 4. 武田信玄

問8 日本の歴史における主要な出来事を時系列で整理したとき、鎌倉幕府の成立、室町幕府の成立、応仁の乱に続いて、16世紀に発生した出来事としてふさわしいものはどれですか。（2020年 京都公立入試 類似）

1. 種子島への鉄砲の伝来 2. 御成敗式目の制定 3. 元寇による博多への侵攻 4. 日明貿易（勘合貿易）の開始

問9 16世紀後半、甲斐や信濃の一部では「甲州ます」と呼ばれる独自の枧が使用されていました。中央の京で使われていた標準的な枧と容量が異なる「甲州ます」のような度量衡が地域ごとに存在していたことは、当時の政治体制についてどのようなことを示唆していますか。（2020年 愛知公立入試 類似）

1. 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至っていなかったこと
2. 足利義昭が強力な権力によって全国の度量衡を統一し、各地域の経済活動を完全に管理していたこと
3. 海外貿易を円滑に進めるため、輸出入の拠点ごとに異なる計測単位を用いることが幕府より推奨されていたこと
4. 農業技術が未熟であったため、収穫量を正確に測るための全国一律の基準を作る必要性がなかったこと

問10 戦国大名は、自らの居城の周辺に家臣や商工業者を強制的に呼び寄せて住ませ、領国支配の拠点となる町を築きました。このような町の形態を何と称しますか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 城下町 2. 門前町 3. 宿場町 4. 港町

答え合わせ・解説

問1	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問2	答え 1 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問3	答え 1 イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。	中世ヨーロッパではコショウなどの香辛料が非常に高価でしたが、陸路の貿易はオスマン帝国やイスラム商人、地中海貿易はイタリアの都市国家に独占されていました。ポルトガルはこれらの中間搾取を避け、莫大な利益を得るために海路での直接取引を目指しました。
問4	答え 1 喜望峯	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問5	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は実力で領土を治める必要がありました。そこで、領国支配を安定させるために独自の法規範である分国法を制定しました。これは、大名の権力を強化し、家臣同士の私的な争いを禁じる役割を果たしました。
問6	答え 1 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問7	答え 4 武田信玄	甲斐（現在の山梨県）を拠点とした武田信玄は、領国支配を確かなものにするため「甲州法度之次第」を定めました。この中には家臣団の統制だけでなく、大名自身の行動を制約する条文も含まれており、領国全体で法による秩序を作ろうとした点が特徴です。
問8	答え 1 種子島への鉄砲の伝来	鎌倉時代の御成敗式目制定や元寇、室町時代の幕府成立や応仁の乱を経て、戦国時代に入った1543年にポルトガル人によって鉄砲が伝えられました。これは時系列において、室町幕府が衰退し戦国大名が台頭する時期にあたります。
問9	答え 1 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至っていなかったこと	16世紀後半の日本では、武田氏などの有力な戦国大名が独自の領国支配を行っていました。甲斐や信濃で「甲州ます」という独自の基準が使われていた事実は、長さや重さ、容積の基準である「度量衡」が全国で統一されていなかったことを示しています。これは、当時の天皇や室町幕府といった中央の権力が、全国的な経済基準を強制できるほどの中央集権的な政治体制を確立できていなかったという背景があります。その後、織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程で、次第に度量衡の統一が進められていくこととなります。
問10	答え 1 城下町	戦国大名は、領地を効果的に支配するために、それまで各地に分散していた家臣を城の周辺に集め、軍事力を強化しました。同時に、武器の製造や物資の流通を担う商工業者を住まわせることで、経済の活性化も図りました。福井県の一乗谷（朝倉氏の拠点）などは、その代表的な遺跡として知られています。

問1 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。
2. ムハンマドがイスラム教を創出し、アラビア半島の統一を進めていた。
3. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。
4. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。

問2 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）

1. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。
2. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。
3. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
4. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。

問3 大航海時代において、ポルトガルの航海者バスコ＝ダ＝ガマがインド航路の開拓に成功したことが、その後のヨーロッパ諸国に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した
2. 大西洋を西に進む航路が否定され、すべての探検家がアフリカ経由を目指すようになった
3. 宗教改革が始まり、キリスト教の布教を目的とした航海が中止された
4. アメリカ大陸への植民地支配が終了し、交易の拠点がすべてアジアへ移った

問4 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 公事方御定書

問5 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから
2. 江戸幕府が大名たちの婚姻や城の修繕を制限し、全国の諸大名を統制しようと考えたから
3. 鎌倉幕府が御家人たちの領地争いを裁判によって公正に解決し、武士の支持を集めようとしたから
4. 明治政府が近代的な国家を建設するために、西洋の法制度を取り入れて国民の権利を定めようとしたから

問6 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力のある者が上位の者を打ち倒す「下剋上」の風潮が広がる中、各地の戦国大名は自らの力で領国を統治する必要がありました。このように、戦国大名が領国内の家臣や民衆の行動を規制し、支配を維持するために独自に定めた法を何といいますか。（2016年 福岡県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 公事方御定書
4. 御成敗式目

問7 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といいますか。（2022年 和歌山公立入試 類似）

1. 分国法
2. 御成敗式目
3. 武家諸法度
4. 公事方御定書

問8 日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
2. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
3. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
4. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問2	答え 1 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問3	答え 1 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した	インド航路の発見により、貿易の主役が地中海から大西洋に面した国々へと移りました。これにより、ベネチアなどのイタリア諸都市が行っていた、イスラム勢力を仲介とする従来の貿易ルートは大きな打撃を受けました。
問4	答え 1 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問5	答え 1 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから	応仁の乱によって中央政府である室町幕府の権威が失墜すると、各地の大名は自らの力で領国を維持しなければならませんでした。領国内の紛争を解決し、家臣を団結させて軍事力を高めるために、独自の法律が必要とされました。選択肢にある「武家諸法度」は江戸時代、「御成敗式目」は鎌倉時代、「明治の法制度」は近代のものです。
問6	答え 1 分国法	戦国時代には幕府の権威が衰え、全国一律の法が機能しなくなりました。そのため、各地の戦国大名は自分の領地（分国）を治めるために独自のルールを制定しました。今川仮名目録や、武田氏の甲州法度次第などが有名です。江戸時代に幕府が大名を統制するために出した武家諸法度とは、制定の主体や目的が異なります。
問7	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問8	答え 1 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	元軍の襲来である「元寇」は13世紀後半（鎌倉時代後半）、足利義満による「日明貿易」の開始は15世紀初め（室町時代）、そしてフランシスコ・ザビエルによる「キリスト教伝来」は1549年（戦国時代）です。それぞれ、鎌倉・室町・戦国の各時代を象徴する重大な外交上の出来事です。

問1 豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。（2017年 高知公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峯を経てインドに到達した。 | 2. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐる北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。 | 3. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマール憲法が制定された。 | 4. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。 |
|--|---|--|--|

問2 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。（2017年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。 | 2. この武器は弓矢と呼ばれ、従来騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。 | 3. この武器の伝来と同時にフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。 | 4. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、終始輸入に頼っていた。 |
|--|---|--|---|

問3 室町時代後期、応仁の乱をきっかけに幕府の権威が衰えると、実力で領地を拡大する戦国大名が登場しました。彼らが自らの領国内の武士や民衆を統治し、秩序を維持するために独自に定めた法を何とといいますか。（2023年 栃木県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|--------|----------|-----------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 分国法 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|----------|--------|----------|-----------|

問4 戦国時代、石見銀山などの鉱山開発が各地で盛んに行われた背景として、戦国大名が銀を求めた主な目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 岐阜公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 1. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため | 2. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため | 3. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため | 4. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため |
|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|

問5 1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。 | 2. この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。 | 3. 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。 | 4. この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。 |
|---|--|---|---|

問6 戦国大名が自らの領国内を独自に統治するために定めた、一族や家臣、領民が守るべききまりを何とといいますか。（2017年 大分県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|----------|----------|-----------|
| 1. 分国法 | 2. 武家諸法度 | 3. 御成敗式目 | 4. 慶安の御触書 |
|--------|----------|----------|-----------|

問7 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何とといいますか。（2022年 和歌山公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|----------|----------|-----------|
| 1. 分国法 | 2. 御成敗式目 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|--------|----------|----------|-----------|

問8 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 広島公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--------------------------------------|---|
| 1. 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため | 2. 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため | 3. 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため | 4. 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため |
|---|---|--------------------------------------|---|

問9 戦国大名が定めた独自の法律の中には、「喧嘩（けんか）両成敗」のように、家臣同士の私的な争いを厳しく禁じる規定が多く見られます。このような厳しい法を大名が制定した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 岡山公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 家臣たちの実力を認め、それぞれの領地での自由な行動を促すため | 2. 家臣同士の私的な争いを抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため | 3. 室町幕府が定めた全国一律の裁判基準を、各地の家臣に徹底させるため | 4. 天皇から授けられた裁判権を行使して、公家社会の秩序を維持するため |
|-----------------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	日本の安土桃山時代における朝鮮出兵（1592年）と比較して、バスコ・ダ・ガマのインド航路到達は1498年（15世紀末）の出来事であり、約100年ほど早い時期に当たります。他の選択肢であるフランス革命は18世紀末、南北戦争は19世紀、ワイマール憲法の制定は20世紀の出来事であり、いずれも日本の江戸時代後期から大正時代にかけての事象です。
問2	答え 1 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一斉に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問3	答え 2 分国法	室町幕府の支配力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名は自らの領国を自立して治める必要がありました。そこで、家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、年貢の徴収、婚姻の制限などを定めた独自の法である分国法（家法）を制定しました。なお、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度や公事方御定書は江戸時代の法です。
問4	答え 1 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍事を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問5	答え 1 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。	1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。
問6	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退する中で、戦国大名は自らの力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私闘の禁止や領民の統制を目的に制定された独自の法律が「分国法（家法）」です。これにより、大名は幕府の法に縛られることなく、領国内の秩序を維持しました。
問7	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問8	答え 1 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため	戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住ませることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。
問9	答え 2 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため	戦国大名にとって、家臣同士が私的な理由で争うことは、軍事力の低下や領国の混乱につながる大きなリスクでした。そのため、分国法を通じて「争いごとの解決は大名の裁定に従うべきである」という原則を確立させました。これにより、家臣たちを強力に統制し、領国全体を一丸となって運営する体制（領国支配）を整えようとしたのです。

問1 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された
2. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った
3. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた
4. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった

問2 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。
2. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。
3. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。
4. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。

問3 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 聖書
2. ローマ教皇の命令
3. 免罪符（贖宥状）
4. 教会が定めた儀式

問4 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 公家諸法度
4. 御成敗式目

問5 室町時代後半から戦国時代にかけて、各地で勢力を強めた戦国大名は、家臣や領民を統制し、自らの領国を独自のルールで支配しようとしていました。このように、戦国大名が領国支配のために独自に制定した法律を何といいますか。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 分国法
4. 十七条の憲法

問6 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 喧嘩両成敗
2. 連座（縁座）
3. 目目安箱
4. 奉公と恩賞

問7 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 喜望峯
2. マゼラン海峡
3. パナマ運河
4. スエズ運河

問8 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 惣領制
2. 下剋上
3. 徳政令
4. 寄合

問9 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目（貞永式目）」を制定した目的や背景を説明したものととして、最も適切な内容を選びなさい。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。
2. 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。
3. 元寇（モンゴル襲来）による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。
4. 平将門の乱を鎮圧した後に生じた関東地方の混乱を収めるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問2	答え 2 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強かに統率し、富国强兵を図る狙いがありました。
問3	答え 1 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問4	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問5	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は幕府の法律に頼らず、自分の領国（分国）を治めるための独自の法を定めました。これが分国法です。代表的なものに、武田氏の「甲州法度次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがあります。これに対し、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度は江戸時代に制定されたものです。
問6	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの方国法に盛り込まれました。
問7	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問8	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問9	答え 1 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。	1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。